

さか うえ たけじ

坂上多計二

1925 (大正14年) 6月26日生まれ

陸軍 歩兵第100師団 独立歩兵第165大隊

海軍 第103軍需部ダバオ支部 ラパンダイ直営農場

私は1943年にフィリッピン・ミンダナオ島ダバオ市郊外ラパンダイ海軍直営農場で軍属として8名の指導者と共に台湾人と現地邦人120名で、生鮮食料品を生産して現地の陸海軍へ補給する仕事をしていました。

1944年4月に現地で徴兵検査に合格し、陸軍独立歩兵第165大隊高橋中隊へ入隊しましたが、一週間後に海軍司令部の命令により、元の農場へ現役兵として派遣されて、営農指導を続けていました。

翌年5月にダバオ港周辺に米軍が上陸し、連日砲爆撃を続け農場でも死傷者が続出し営農が出来なくなり農場を放棄し、私は台湾人隊員30名を引率指揮して後方のジャングル地帯へ逃げ込み、現地山地住民の開発跡地を見付けて掘って小屋を設営し、自活生活には入りました。

退避に際して隊員は持てるだけの食料と塩瓶1本を持たせたが、食料は直ぐ乏しくなり、開発跡地に自生するサツマイモの蔓、煮れば食べられる野草のほか、トカゲなど爬虫類、鳥、猿など何でも食料にした。引率した隊員を2ヶ班に分けて米軍の目を掠め平地に下り、交代でサツマイモの蔓や食料を物色させたが、栄養失調で隊員の体力が減退して永続は出来なかった。

毎日エサ探しにジャングルを徘徊すればブーンと死臭が漂い、大木に寄り懸かり遠目に微笑んで居る日本兵に近づいて見ると、既に死亡して蠅が目や口許にウジを産み付け蠢いているのが、薄目を開け白い菌を見せている様に見えるのだつた。

ある夕方、弱った日本兵が小屋に「俺を泊めてくれ」と訪れたが、我が隊も衰弱死が頻発し極限状態で拒絶し、すぐ追い出したところ悲しい顔で出て行った。翌日エサ探しに出たら直ぐ小屋の近くで死んでいて、死体の頭付近には家族写真が散らばり(妹尾と裏書き)望郷の念を抱いて亡くなったのかと胸が痛んだが、我が隊員も栄養失調のため、日ごとに痩せ細り、人間は塩分が尽きれば身体がバンバンに水膨れするのである。こうなれば間もなくジャングルの露となる。一緒にジャングルに退避した隊員も10名足らずとなり、何でも食べ物を分け隔てなく過ごし、下痢は消し炭で止めてくれたり、あの優しい台湾人隊員を忘れられない。

ジャングル内で米軍のピラを拾い、鈴木貫太郎内閣総理大臣がポッドム宣言を受託したと敗戦を本気で信ずることはなかった。9月30日海軍司令部の命で弱った隊員を励まし支えながら米軍の分哨へ投降したとき隊員は僅か数名だった。

今日本政府が周辺国の脅威を強調して、平和憲法を改憲して「緊急事態の条項」を取り込もうと構えているのが見え見えです。「緊急事態の条項」とは総理大臣にフリーハンドを与える危険性を敏感に感じるのは、先の大戦を経験した我々戦場体験者のカンの然らしむものであり、私は老骨に鞭打ち生きている限り声を大にして平和憲法が発布された時のあの嬉しさを思い出し、戦争放棄の大切さを伝えたい

戦場体験者の靖国神社考

はじめに

どこの国でも祖国のために自己の生命を犠牲にして戦った戦士を手厚く顕彰しており、我が国では戦没者を靖国神社へ奉祀し顕彰しています。

海外諸国を見渡しても戦争犠牲者を国立墓地へ葬り顕彰しているのに比し どうして日本での戦没者の靖国神社顕彰について内外から異論が続出するのか。

戦争参加者としての見解

私は八人兄弟姉妹の五番目に生まれ台湾で就学卒業し、フィリッピン・ミンダナオ島で戦場体験しました。軍属部隊の小隊長として多くの部下を戦場で失い、自責の念に堪えない思いです。戦後 台湾の学校同窓会が東京青山で実施されたときに、靖国神社の前を通りかかり誰言うもなく「おい参拝しようや」と全員境内に入り直ぐ左手の手水所で手洗いしました。私はそこから先へ一歩も行きたく無く 木陰に隠れ同窓生が出て来るまで待ちました。瞬時にどうしても境内に踏み込めない気持ちで（俺はお前達のためにダメされないぞ）とホゾを固めました。何故だろう。

何故（しんとう）礼式なのか

我々は新憲法の下で信教の自由が保証されており、国民はそれぞれの信教に従い仏教、教派神道、キリスト教、イスラム教等を信仰しているが、靖国神社に奉祀する戦没者をどうして**国家神道に基づいた礼式**を実施しているのか。私ら戦前の生活を体験している者はすぐ気づき、第2次世界大戦に敗戦するまで帝国憲法下の国家神道時代の嫌悪感を思い出すのであります。

国家神道（しんとう）とは 明治14年太政官通達により 神道祭神の統一で天皇中心の**紀記神話の神々**が、全国的祭神として**強制的に統一**されたのである。

国家神道（しんとう）の下で 政府に神社本局に改組し 神社の社格を制定した**伊勢神宮**を**日本国の本宗**として 伊勢神宮の下にそれぞれ大・中・小の官弊社、国弊社を官社として宮司を神官（官吏）に任用した。

以外の神社を諸社と呼ばれ 府県社 村社 郷社 無格社とした。

特に**靖国神社**は国家神道の中でも**別格の重い扱い**を受け、伊勢神宮と並ぶ 国家神道の**巨大な支柱**に成長し **忠君愛国**と**天皇親政化**として**国粹主義**の根源となつた

爾来80年間に亘る**国家神道体制**が敷かれ **全国民は必ず何れかの神社の氏子**になるように強制されたので 殆どの国民は 各家庭に**「神棚」**設置が**義務**付けられ**伊勢神宮大麻**を飾って拝礼した。

全国の各**学校**には **「奉安殿」**が設置され 神格化された天皇の**御真影**が奉納され 祝祭日には生徒児童が整列し 遠く宮城に向かい遙拝した。校長は全員が低頭する前で**「教育勅語」**を厳かに拝読した。

これが敗戦前の日本全国国民が体験した国家神道（しんとう）の姿であつた。